

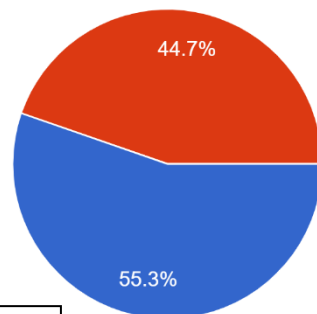
豊岡市教育研修センターだより

豊岡市教育委員会 R6(2024).9.6

No. 8

豊岡市のホームページにもアップしています。

豊岡市 HP→上段「くらし」→右下「教育・学校」→「教育研修センター」へ



豊岡市教育フォーラムより

演劇 WS について→

(本フォーラム参加者)

● 参加したことがある

● 参加したことがない

教育フォーラムの意義について

東井義雄先生の不易の教育観に学びを得る。

- ① 「子どもに寄り添う」…子どもの思い方、感じ方、考え方、行動の仕方等を見取り、なぜそのように感じたり、考えたり、行動したりするかを考え、教育実践につなげる。
- ② 先生たちの実践を大切にし、決して派手な取組でなくても値打ちある実践、子どもの命にかかわる実践といった尊い実践を大切にし、みんなで「観て、聴いて、感じて」学ぶ。

実践発表より

トライ＆エラー ～ 子どもも大人も ～ (狩野 哲也 先生)

- ・若いころの経験…子どもとの関係づくりで大切にしたこと(家庭と協力、共感的傾聴、教育的ニーズへの支援)どんな子でも力を伸ばせる教育がしたい！
他の教室の良いところをまねる⇒自分に足りなかったものが見えてきた。
- ・意識的に取り組んでいること…「特別活動」「授業づくり」を中心に子ども主体の取組を非認知能力(やり抜く力、協働性、自制心)の視点で展開。自分という人間の人権や道徳感覚を伝える。

二度とこんな経験はしたくない・させたくない(山内 拓樹 先生)

- ・若いころの経験…とにかく指示・命令の教育活動。学校の指導が何か駄目だったんだな…。
二度とこんな経験は子どもにもさせたくないし、自分もしたくない。
- ・現在実践していること…担任・生徒会・生徒指導・部活動等で「一人一人と対話し一人一人を認める」「その子が、今がんばれることを支える」「子どもたちが安心して過ごせる空間をつくる」「生徒が協働する機会をつくる」を大切に。

よさこい やきいも チーズケーキ (綿貫 あずみ 先生)

- ・若いころの経験…「ちゃんとしなきゃ」「ちゃんとさせなきゃ」にとらわれ続ける⇒「苦しい・つらい」⇒運動会のソーラン節指導で「学校に貢献できる、役に立ててうれしい気持ち」⇒子どもも同じでは？
- ・今実践していること…「今の自分にできることを一生懸命やろう」「うまくいかないときもある」「難しければ助けを求めよう」「自分自身が夢中になれることを大切にしよう」⇒穏やかな状態で何事も向き合えるようになった。

参加者の声

○先輩の先生方の実践発表を聴いて、2年目の私が抱えている悩みを先輩方も同じように経験されてきたのだと知ることができ、少し心が軽くなりました。その中で、私がとても共感することができたのが、「子どもの困り感や悩みを解決できない」ということです。実践発表の中で、「一人一人と対話し、一人一人を認める」ということが言われていました。子どもたちが、自分の考えや気持ち、そして存在自体を受容される経験を積み重ねることによって、非認知能力の向上につながると思います。これからも学んでいきたいと思っています。

○指導がうまくいかないときだからこそ、小手先の技術に目をむけるのではなく、一人一人に向き合い寄り添いながら、個人を成長させることが大切なんだと考えることができました。「教員」といえば、大変だというイメージがありますが、やはり人だからこそ為せる職業なのかなと思います。生徒をはじめ、ご家族、地域の方、同僚などたくさんの人と関わり合いながら学校生活を送り、支え合いながら自然と成長できる関係性を大切に、教員という職と向き合っていきたいと思っています。

○フォーラムでの学びを管理職の立場で今後どう生かしていくかを考えました。学級と同じで、「排除思考」「指示・命令」「ちゃんと」では、先生方は生き生きと教育活動に従事できないこと、先生方一人一人の頑張りを見取りポジティブに受け止め、「褒めて、認めて、喜ぶ」ことで全員が安心して仕事のできる環境をつくるのが管理職の重要な役割であることに改めて気づかせていただきました。

・実践発表を聴いて

【狩野先生の実践について】

特に、「子どもを丁寧にそして、かなり踏み込んで見取っていること」「他の先生の教室、授業を見学し学ぼうとされたこと」「子どもに『失敗させること』ができるようになったこと。（子どもと本当に向き合う、信じて見守れるからこそ）※成功することだけが良い体験ではない」が素晴らしかった。

【山内先生の実践について】

特に、変わられたキッカケとなった、本当のことを言ってくれる生徒の存在は大きいと思う。演劇も含めて、「本当のことを言う」ということは、大切なこと。「生徒一人一人と対話しようと変わられたこと」「一人一人に目標を設定され、対応しようとされているところ」が素晴らしかった。

【綿貫先生の実践について】

特に「自分の好きなこと、特異なこと、個性を軸にして仕事に活用しようと意識されているところ」「『ちゃんとする』について向き合い、抜けられているところ。「演劇WSをしていても、『ちゃんと』は具体的な指示ではないし、自分に都合の良い言葉であると学んだ過去がある」「『キラキラみつけ』で、『当然のことと思われていること』を焦点化して取り組んでいるところ」が素晴らしかった。

・演劇ワークショップの紹介（動画）➡豊岡市ホームページにアップされています。ぜひご視聴を！

ねらいは、非認知能力（やり抜く力、自制心、協働性）の向上。

・非認知能力向上事業の検証

例1：出来ていないところをストレートに伝えることで子どもたちが内省し、次のワークショップでは改善して取り組んだ（自制心、やり抜く力）

例2：体験プログラムは「少しがんばったらできる内容」にしている。生活体験が少ないと思われる場合、プログラム変更をすることで効果を上げることができる。

・ファシリテーターのマインド

リフレーミングのワーク：ネガティブなこと、言葉をポジティブなこと、言葉に捉え直す
個々人をポジティブに捉え直すことを粘り強くする（無関心が一番ダメ）

・まとめ 非認知能力はすべての子どもたちがもっている。先生方が気づき、伸ばしていったほしい。

参加者の声

- 「すべての子は、非認知能力を持っている」という言葉が印象に残りました。もともと持っている力を教師が発見し、授業や行事などで伸ばしていくことが、大切なんだと、それが教師の役割なんだと気付く言葉でした。学校生活の中で、非認知能力を伸ばす機会はたくさんあります。小さなことでも子どもたちに任せてみたり、マイナス言葉をプラス言葉に捉え直して子どもと向き合ったりしていきたいです。
- 講演を聴いて、つい、子どもたちの課題に目をむけ、どう改善、支援するかという思考に陥りがちになってしまっていたことに気が付きました。
- 会場のみんで、ネガティブなことをポジティブにとらえ直すリフレーミングのワークで、実に多様な言葉が表出されていて興味深かったです。担任一人で子どもを見取っているといふ固定化してしまうので「チームで見取る」「チームでリフレーミング」を取り入れる柔軟な対応策につながると気が付きました。
- 1年生で、ワークショップをしていただきましたが、普段おとなしく後ろの方にいる児童が自主的に動物に変身して、みんなを巻き込んだ表現をしたり、消極的だった児童が海を演じてやり切った表情をしていたりと、様々な子どもの様子を見て、プロに学ぶことの大切さを実感しました。どの学年でも効果はあると思いますが、低学年で学ぶことが、特に有効だと改めて感じました。
- 本校の2年児童もこのワークショップへの参加を私たちの想像以上に心待ちにしており、1学期の授業を大いに楽しんでいました。仲間と折り合いをつけ、共に作品をつくり、演じ切ることが、子どもたちにとってこれほどの喜びであったことに、驚きとありがたみをもって活動を参観していました。

【教育委員会より】

本フォーラムは、1年に一度、豊岡市内の先生方がご自分のまた、チーム学校としての教育の在り方について、確認する貴重な機会です。3名の先生の実践は、まさに「子どもに寄り添いたい」という内なる葛藤から生まれたものに他ありません。会場で同じ時間を共有された先生方も、様々な学びをされたことだと思います。ぜひ、参加された方は自校の若い先生からベテランの先生まで本フォーラムの内容について共有ください。